
CAR LOVE LETTER 「Brothers」

YAS

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

CAR LOVE LETTER 「Brothers」

【Nコード】

N7297H

【作者名】

YAS

【あらすじ】

自宅に居ついでしまった野良猫。のほほんとした毎日を送るのだが・・・。(テーマ車種：トヨタマーク2クオリス)(MCV21W)

(前書き)

車と人が織り成すストーリー。車は工業製品だけれども、ただの機械ではない。

貴方も、そんな感覚を持ったことはありませんか？

そんな感覚を「CAR LOVE LETTER」と呼び、短編で綴りたいと思います。

<Theme: TOYOTA Mark 2 Qualis)MCV
21W)>

今朝もあいつがいる。

早く降りないと、もうすぐ父さんが出て来るぞ！

俺は自転車にまたがってあいつに注意するが、あくびなんてして、全く聞きやしない。

すぐに父さんが出て来る。

「あーっ！またコイツは！」

父さんが怒鳴ると、軽い身のこなしでひらりと隣の庭にあいつは逃げて行った。

あいつとは、真っ黒のちよっと小太りな猫。

いつの頃からか、うちの近所にふらりと現れて、最近では父さんの車の上で日向ぼっこするのが日課らしい。

いつも父さんのクオリスの上にいるもんだから、俺と母さんはいつこのことをクオリスと呼び、たまにハムや牛乳をあげていた。

そうしたら、しっかりと居付いてしまった。

猫のクオリスは出来たやつで、うちの敷地でそそうはしない。父さんのクオリスに上る時も爪を立てたりしない。

音も無くひらりと飛び乗り、いつの間にか黒い父さんのクオリスと同化しているのだ。

せっかく洗車しても足跡が残ってしまうのが難点だったが、父さん

も「動物のすることだからなあ」、となかば諦めているようだった。父さんが会社に行っている間は、父さんのクオリスの駐車場は猫のクオリスが占拠している。

日がな一日ゴロゴロしてて、ふらりと出掛けたと思ったら、スズメを捕まえて来たりする。

食事を終えると、庭のバケツの水を飲み、そして毛づくろいして、また日光に身を委ねる。

夕方父さんが帰って来る頃に、またふらりと出掛けて行って、気付くと父さんのクオリスのボンネットで丸まっているのだ。

そんな繰り返しを毎日。猫はのんびりしてていいよなあと、俺は机の上の数1の参考書と父さんのクオリスの上の猫のクオリスをぼんやり眺めた。

ある日、夜半から朝に掛けて台風が来るとニュースで言っていた。

雨戸を閉めたり植木鉢を玄関に入れたりバタバタしている時に、また猫のクオリスがふらりと現れた。

俺は父さんの許しをもらい、猫のクオリスを台風が過ぎるまで玄関で一泊させる事にした。

俺は猫のクオリスに猫撫で声で近寄る。

いつもなら喉を鳴らして俺の手にぐりぐりすりよって来るのだが、今日のあいつは全く違った。

緑の綺麗な目の瞳孔を丸く開き、鼻筋眉間に皺を寄せて牙をむいた。そして俺の目を睨みつけ、低く唸るのだ。

どうしたんだよクオリス。俺は一步步み寄った。するとクオリスはシャーッと俺に威嚇の声を出し、俺の手をひつかいたのだ。

猫のクオリスはそのまま一目散に俺の前から逃げて行った。

そんな。いつもあんなに仲良くしてたのに。裏切られた絶望感と、嵐の迫る焦燥感に、俺はただ猫のクオリスの名を呼び続けるだけであつた。

その日を境に、猫のクオリスは俺達の前に姿を現す事はなくなった。俺が悪かったのだろうか。後悔の念が俺の頭の中を支配する。

「きつとどこかの家の車の上で丸まっているわよ。」母さんが少し寂しそうな表情で俺を慰める。

「これで足跡に悩まされる心配が減ったな。」という父さんの言葉に俺はむっとする。

それを感じとったのか、父さんはまた、「意外に明日辺りには父さんのクオリスの上に居るかも知れないな。」と言った。

季節が変わり、少し肌寒くなってきた頃、俺が倉庫から自転車を出している、後ろの方で聞き覚えのある声が出た。

クオリス！俺は振り返った。

そこには緑の綺麗な目をした黒いスリムな猫がいた。

クオリス、か？

俺がそう呼ぶと、黒いスリムな猫は嬉しそうにゴロゴロと喉を鳴らして俺にすりよって来た。

あんなに丸々太って居たのに、こんなに痩せてしまつて。

と思ったら、猫のクオリスの後ろから、小さな黒い仔猫が二匹と白い仔猫が一匹、不安そうな面持ちで小さくもしっかりとした鳴き声をあげて駆け寄ってきた。

お前、お母さんになったのか！太っていたと思ったのは、実はこいつらが入っていたのか！

出産間際の母猫は、非常に気性が荒くなると聞いた事がある。

俺が悪かったのではなかったのか？そう聞くと、猫のクオリスは俺のズボンにぐりぐりと顔をすりつけた。

かくして猫のクオリスとその子供達は、うちの家族の一員となった。

子供達に名前を付けねばなるまいと、父さんは頭をひねった。

母さんがクオリスなのだから、尻尾の長い黒猫はグランデ、尻尾の短い黒猫はアバンテ、白いコイツはルーセントとしよう。

車の三兄弟にあやかって彼らの名前はすぐに決まった。

正式に家族となった彼らは、それぞれ自分のお気に入りの場所を見つけた。

グランデは棚の上、アバンテはテレビの裏、ルーセントは俺のベッド。

そしてクオリスはやはり父さんのクオリスの上。

今日も猫のクオリスは、日がな一日ゴロゴロとしている。父さんのクオリスの上で。

俺はまた、猫はのんびりしてていいよなあと、物理の教科書片手に猫のクオリスをぼんやりと眺めた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7297h/>

CAR LOVE LETTER 「Brothers」

2010年10月9日20時07分発行